

民主化闘争情報

No. 843
2011年11月17日
発行 日本鉄道労働組合連合会
(JR連合)

11月15日、JR東日本ユニオンが東京地方本部で1名の仲間の加入を勝ちとった。10月の秋田地本における組織拡大に続く成果だ。

JR東日本ユニオンが東京地本で組織拡大! 東労組組合員にJR東日本ユニオンへの結集を呼びかけよう!

今回、JR東日本ユニオンに加入したのは尾久駅輸送主任の斎藤光さん(54歳)だ。斎藤さんは、先日まで東労組に所属していたが、組織の閉鎖的運営に疑問を感じ、訣別していた。今回の組織拡大は、職場における地道な活動の成果である。

JR東日本ユニオンは、7月の大会以降、地本代表者会議および組織戦略会議を開催し、これまでの運動の成果を確認しながら、組織拡大に向け、全地本で総力をあげて取り組んできた。JR東日本ユニオン本部は、「高橋さん(秋田)に続く、この度の斎藤さんの加入を全組合員で歓迎するとともに、東日本全域に民主化の嵐を巻き起こすため、全地方本部が奮闘しよう」と号令を発している。

横浜支社幹部が不規則発言? JR東日本の不幸な労使関係の反映か?!

ところで、話は遡るが、10月12日に東労組横浜地本が「『2011年度10年目研修』を使った組合潰しを糾弾し、研修中止を求める緊急集会」なるものを開催した。事の発端は、9月12日に行われた『2011年度10年目研修』の際に語ったとされる横浜支社人事課長の以下のような発言である。

- ・「今の東労組は間違っている、上げ足を取って建設的な話ができない」「会社あつての労組だということを忘れている」
- ・「団体交渉に出たことのある人はいるか? 日本語の分からないやつを相手にしなければならぬ、あいつら狂っている」
- ・「俺はお前らの入社試験の点数を知っている」「幹部は楽しいぞ、幹部になれ」「サラリーマンは上から言われたことを素直に聞け」

この発言が発覚したことを受け、東労組横浜地本は10月5日に緊急支部・分会代表者会議を開催した。その中で、地本執行部は「1996年には、JR東労組批判が繰り返されたリーダー研修が中止になったことがあったが、『今回の研修は人事課長特別講義で組合に対する嫌悪が吐露され、違和感を感じた』と言われている。これは、講義をしている個人の問題ではない。現在の経営の質だ。不当労働行為にあたると言わざるをえない」などと猛反発している。

また、10月12日に開催された上記集会でも、「この研修はJR東労組を敵視し、もの言わぬ社員にするためのものだ」「交渉を馬鹿にしていたから、交渉中ひどい態度だった。売られたケンカは買うしかない」「あんな講義をしている人に幹部としての資格はない。辞めてもらおう」などとの発言がされた模様である。

東労組横浜地本は、翌13日、支社に対して『2011年度10年目研修に関する緊急申し入れ』を提出し、「研修の主旨と全貌を明らかにすると同時に全行程を即刻中止し、不当労働行為に対し謝罪すること」を求めたが、会社は「本研修は意義あることであり、絶対やめない」との対応であったようである。

いずれにしても、会社幹部の口から上記のような発言がされたことが事実だとしたら、誠に不幸な労使関係としか言いようがない。東労組は会社を糾弾するばかりではなく、経営側に嫌悪感しか与えない自らの「組合の質」を問うてみたらどうなのか。